

源氏 千年紀



©Mitsuki Tosa (1617-1691) / Part of the Burke Albums, property of Mary Griggs Burke

源氏物語千年紀を記念して、特別企画『源氏物語の誘惑』を開催いたします。当劇場の好評シリーズ「源氏語り五十四帖」の解説でもおなじみの三田村雅子さんに監修いただき、みなさまを幽玄な源氏物語の世界へお誘いします。

第一部では研究者として名高い原岡文子さんの講演、そして第二部ではその時代の音楽の研究者でもあるスティーヴン・G・ネルソンさんの復元楽器による演奏という、源氏物語を深めるにふさわしいひととき。

新しい源氏物語の扉を開いてみませんか？

特別企画

『源氏物語の誘惑』

文=三田村雅子（フェリス女学院大学教授）

2008年は源氏物語がある程度完成した年から千年目にあたるということで、源氏物語千年を記念する企画・イベントが多数用意されている。この彩の国さいたま芸術劇場で2001年から始められた「源氏語り五十四帖」の企画も、源氏物語が書き始められた1001年秋ごろを意識して、その千年目であることを記念して企画された大企画であったから、「源氏語り五十四帖」の時間は、源氏物語が書き始められた1001年から大半が成立するまでの1008年までの時間とほぼ重なるように、歩みを重ねて7年目を迎えた。宇治十帖の世界がようやく始まろうとするところである。原作の成立も1008年にすべてではなく、宇治十帖の諸巻はそれ以降に残されていたであろうと推測されるので、「源氏語り」は源氏物語そのものの執筆のスピードとほぼ等しいテンポで源氏物語を読み進め、読み深めてきたことになる。積み重ねてきた時間の重さに一種の感慨がある。

この「源氏語り五十四帖」の企画自体が源氏物語千年を記念するものであったことは言うまでもないことなのだが、せっかくの機会なので、ここで番外編として、「源氏物語の誘惑」を企画した。平素の常連のお客さまはもちろん、より広く源氏物語について学びのきっかけを求めておられる方々、もっと源氏を知りたい、源氏の世界について学びを深めたいと思っていられる方々にも楽しんでいただける、親しみやすく、新鮮な企画を用意してみた。

彩の国さいたま芸術劇場では過去に、「源氏物語の音楽」「源氏物語を奏でる」の二企画を「源氏語り」として並行して催し、充実した、かけがえのない企画として好評を博してきた。今回は、

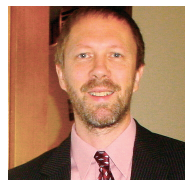
現在の源氏物語研究を代表する研究者でいらして、源氏物語の見事な読みと定評のある原岡文子さんにご講演を、休憩時間に源氏物語の時代の香の復元を、後半では源氏物語の時代の箏曲復元を聞いていただく。千年紀の企画は多くあるけれども、これは学問的にも高度、有益で、かつ面白く、楽しめる会になったと確信している。

原岡さんの流れるような美しい解説、源氏物語の読みを誠実に追究されながら演奏して下さるスティーヴン・ネルソンさんの明快な解説と、すばらしい演奏、そして由緒正しい香のかおりによって、しばし日常の時間を忘れ、源氏物語の世界に浸っていただきたい。



profile: 原岡文子（はらおか ふみこ）

1947年、東京都生まれ。東京女子大学文学部卒業、東京大学大学院人文科学研究科博士課程（国文学）単位取得。博士（文学）。共立女子短期大学助教授を経て、現在、聖心女子大学教授。専攻、日本文学（中古）。著書に『校注叢書源氏物語 若紫』（有精堂87）、「源氏物語 両義の糸」（有精堂91）、「源氏物語 花の五十四帖」（共著 求龍堂2001）、「源氏物語事典」（共著 大和書房02）、「源氏物語の人物と表現 その両義的展開」（翰林書房03）など。



profile: Steven G. Nelson（スティーヴン・G・ネルソン）

1956年、オーストラリア・シドニー生まれ。シドニー大学卒業、同大学院修士課程で音楽史を研究。80年、外来研究留学生として来日。東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了後、85年同博士課程入学。京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター助教授を経て、現在、法政大学文学部教授。専攻は日本音楽史学（特に平安・鎌倉時代）。雅楽・仏教音楽・歌謡に関する研究をテーマとする。自らも雅楽の楽器、箏、地明三味線を演奏。

●●●●PLAY●●●●

源氏物語千年紀特別企画 「源氏物語の誘惑」

【日時】6月7日（土）開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】原岡文子（聖心女子大学教授） スティーヴン・G・ネルソン（法政大学教授）
三田村雅子（フェリス女学院大学教授）

【チケット（税込）】2,000円

【発売日】一般：3月29日（土） メンバーズ：3月22日（土）